

主人公補正が欲しくて
転生したら、転生では
なく憑依してて魔王補
正もあった件

MOKA珈琲

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

神の手違いで死んだ元男の主人公がハデスさんと会って転生しようとしたところハデスさんが間違えて憑依の箱に処理してしまった物語。

見切りで発車するので基本的に不定期更新です。

点数計算が間違ってたので大幅に編集しました。

姉二人の能力は他の作品から一つずつ持ってくると思います。

入りきらなかったタグ

・クロスオーバー（能力・キャラ）

目次

| | |
|--------------------|----|
| ある程度のプロローグ | |
| プロローグ | 1 |
| 幼少期ならぬ幼女期ですよ皆さん | |
| 転生ではなく憑依ってマジですか？ | 7 |
| 設定の時間ですよ | 13 |
| 私が魔王って無いで | |
| す………いや本当だからそ | |
| んな哀れんだ目で見ないでください。 | |
| 21 | |
| ハデス爺さん……この能力チート | |
| すぎひん？これで大人しいってうせや | |
| ろ…… | 28 |
| キンクリってとてもつおい能力ですよ | |
| ね……スペック的にスタプラやワ | |
| ルドにはかないませんが…… | |
| 35 | |
| 強化フラグ第一弾くく光姉さんの場合 | |
| くく | |
| 家族旅行☒………姉達が迷子 | 39 |
| になりますよねわかります。 | |
| 46 | |
| 照姉さんの強さは家族では2番目に弱 | |
| い(事実)………同年代は敵なしですけ | |
| ど…… | |
| 21 | |
| うちの妹達がこんなバグな訳無い | 52 |

(白目)……………とりたいけど本
ど……………まあいつか(思考放棄)

当に虎と狸、象と鼠の対比過ぎて突っ込

92

む気にもならない……………

61

最近ハデス爺に貰った主人公補正は魔

王補正じゃ無いかと考える今日この夜

70

強化フラグ第一弾くく照姉さんの場合

くく……………

74

テツテレー咲はレベルが上がっ

だ……………浩子ちゃんは覚醒した……………

86

奈良に行ったら何故かサイドAのみん

なに何故か会ってしまった(予定調和)け

ある程度のプロローグ プロローグ

俺は目が覚めた。

何故か俺は辺り一面の白い世界で目覚めていた。

「ここがウユニ塩湖か」

『いや違うから』

「じゃあ、サリーナス・グランデス」

『ちやうわい』

「じゃあ、shk: 『死海でもないぞい、いい加減塩湖から離れろ』……………はい。」

確かに俺は日本にいた筈だし海外に観光しに来たわけでもない。

となつてくると……………最近の二次創作物に出てきそうなあれか？

『そのあれじゃよ』

「マジですか」

『本気と書いてマジと読むぐらいにマジじゃ』

となると……………

「えっ、俺死んでるの☒」

目の前の100人中100人が顔を見たら疲れてますかと言いそうな老人が頷いた。
ええ〜……マジで死んでるのね。

『すまないの、儂が徹夜で仕事をしてたら真違ごうて生者の書類を一通、死亡の箱に処理してしまつてな。』

いや、この爺さんマジモンの社畜かよ。

段々と可哀想になってきたな……

「大丈夫ですよ、残業続きじゃそうなりますって。俺も社畜でしたし気持ちにはわかりません。」

『すまんのうその若人よ。』

三徹明けの仕事でミス多目だったしな俺も。

ってか確率的にそれが俺の書類とはある意味ラッキーなのではないかな？

「まあ、俺も社畜人生に嫌気が射してきたので丁度良かったです」

『……怒らんのか？』

「そんなの会社が悪いですしおすし」

神に近いこの世界にも社畜はいる。

そのミスを被つたとしても最終的には休ませなかった会社が悪い。

つまり上の責任になるので爺さんがここに来て謝ってること自体おかしいと思う」

『……心の声がダダ漏れじゃよ』

「わざと漏らしたんです」

『この若人はぐう聖なのに儂の弟は……』

なんかぶつぶつ言い始めたけど気にしない。

『申し遅れたが儂はハデスじゃ。』

ん

「ハデスってゼウスの兄の」

『そうじゃ』

「つまりあの弟はって言ってたのはゼウス」

『……なのじゃ』

ええ……兄の苦勞弟知らずとは本当にあつたんだな。

『まあそれはいい、今決めるのはお主の魂の処遇じゃ。』

「そうでしたね、すると俺は冥界行きですかそれとも転生でしょうか？」

『考えてみたんじゃないかお主、転生してみないかの？』

ですよねー、お約束来ました。

「チートはおやつに入りますか？」

『5000円（6個）までじゃよ、そして転生するところはランダムだがお主の趣味に合わせて決まるぞい。』

ノリ良いねハデスさん。

にしても趣味か、特につて感じはないかな。

唯一の癒し方法が雀荘行つて打つぐらいだったし。

（まあ考えてみますか）

「でけました〜」

『結構考えとつたなお主。』

「折角の転生ですし強くてニューゲームをやってみたいんですよ。」

『どれどれ……』

- 1 : セフィロト & amp ; クリフォトに関する能力（あっちについてから決める）
- 2 : タロットに関する能力（あっちについてから決める）
- 3 : 天才的な頭脳
- 4 : コミュ撃強
- 5 : 圧倒的豪運
- 6 : 主人公補正（出来れば主人公で）

「どうでしょうか？」

『………… お主は意外に大人しい方じやの。』

えっ…………

『前にもこんなことがあったのじやが。その時は無理難題を押し付けて来たのでな。』

「………… ちなみにどんなことを。』

『神の力が欲しいとか、世界を好き勝手作りたいだの、たしか s c p というチートの塊を欲しがったりなどあったの。』

本当この人不憫すぎる。

『お主の転生体を作っていないが、外見はどうしたい。』

「書いていないのでランダムで良いです。」

『本当お主ぐう聖じやの。』

『準備できたぞい』

「早いですね、もつと時間が掛かると思っていました。」

『農なりのお詫びじゃ』

「それでは行つてきます。」

『すまんのう、お主の次の生に幸があらんことを……ん？あつ、間違えた。』

「ちよつと!?？」

『本当にすまん』

フザケルナーと言いながら俺はブラックホールじみたものに吸い込まれて行った。

『農としたことが、転生ではなく憑依の箱に処理してしまったわい。』

幼少期ならぬ幼女期ですよ皆さん
 転生ではなく憑依ってマジですか……

あの神ナチュラルに間違えてだそ……

本当に徹夜明けの注意力散漫なのか？

なんかただ単にドジなだけかも……

「……それは後で考えるか。まずは今の状況を把握することから始めよう。」

身体を注意深く観察するがわかったことがある。

「……まじかよ幼女じゃないですがヤダー」

まさか転生？（神が間違えてるし多分違うが）してから幼女になるとは思っていないで
 すよ〜ってつきり性別はまんま同じだと思てましたし。

……この身長的に3歳ぐらいかな。

頭の回転が速い（転生特典）お陰で少し考えただけで今の状況を察することができた。

……これは間違えてなかったんだねハデス爺さん。

名前が書いてあるものはないかなと探していた時。

「咲?」

後ろから声がした。

「咲どうしたの?」

「…… やばい、似てる子が話しかけてきた。」

似てるし背も高い、歳は近そうだね。

となると、姉又は従姉妹かな。

「…… エエイアタツテクダケロー!」

「なんでもないよ…… お姉ちゃん。」

「なんでもないならいい」

や っ た ぜ あ た っ て た 。

「☒なんでガッツポーズしてるの?」

はっ!…… 私としたことが、喜びのあまりに行動を抑え込むことが出来ませんでした。

「なっ、なんでもないよ。ほっ、本当に。」

「☒ならいいけど？」

……この子鋭いのか鈍いのかどっちなんでしょう。

二階から降りると三人いた。

……うむむ。家に居るのでこれは家族で間違い無いと思いますけど……

まず察するに私は転生とは違う方法で生を受けてる事が何とわかりました。

……だったら一体何なのよって話ですが。

時計を見てみると丁度12時を指してるので昼食ついでに情報収集といきましたよ
う……

「おかーさん、ごはん」

「もう少しでできるから待っててね。」

「みんな、今度の週末にどこに行きたい？」

「私はどこでもいいよー父さんはどこに行きたいー？」

「咲たちに聞いているから俺はいいよ。照、光はどこに行きたい？」

「..... 私はどこでも。光は？」

「いつも通りに雀荘！と、言いたいけどまだ咲がルールを覚えてないからねー」

誘導尋問式話術成功しました。(ドミネーター声)

いや〜こんなにサクサク行つたのは予想外でしたな〜

..... もっと時間が掛かると思ってた考えていた私のセリフを返してください(泣)。

「ハツハツハツ光はそればつかだな。愛さんどこに行きたい？」

「界さん、私はいいから娘たちの意見を反映して。」

..... サクサクしすぎて怖い。

なんでこんなにうまくいくのかな..... って心当たりあるな。

これ、圧倒的豪運(転生特典)のお陰だな。

..... ここまでやばいものだと思つて無かつた。

だけどこれでこの世界の事を知ることができた。

父：宮永 界

母：宮永 愛

長女：宮永 照(身長的な意味で暫定的)

次女：宮永 光(身長的な意味で暫定的)

三女：私こと宮永 咲

…… うん。宮永咲ね……

ここ咲——S a k i——の世界だね……

つまり俺は転生ではなくて憑依してしまったと……

転生ではなくて憑依ってマジっすか……

21世紀。

世界の麻雀競技人口は数億人を超え、プロの麻雀プレイヤーは人々の注目を集めていた。

日本の高校でも大規模な全国大会が毎年開催され、そこではプロに直結する成績を残すべく、高校生麻雀部員たちが覇を競っていた。

世はまさに大麻雀黄金時代である。

俺も好きだった漫画だ。

まさか主人公に憑依とは……

…… とりあえずタロットとセフィロトとクリフトの能力は麻雀関係の能力にし

12 転生ではなく憑依ってマジですか...

よう

設定の時間ですよ

主人公設定

名前：宮永 咲（偽）

よくある典型的憑依型主人公。

ちよつとドジ気質のあるハデス爺さん（三徹明け）のミスを被った不幸系主人公。

本当は転生する予定だったのに、またハデス爺さんのお茶目なドジにより転生ではなく憑依となってしまった。

転生特典として

1：セフィロトとクリフォトの能力

2：タロットの能力

3：天才的な頭脳

4：コミュ撃強

5：圧倒的豪運

6：主人公補正

を選んでおり、本人は満足している。

(ハデス曰くこれは大人しい方)

尚、咲ちゃんに元々備わってる能力は健在だった。

(嶺上開花、槓材の把握、王牌の位置把握、±0)

転生特典解説

1：セフィロトとクリフォトの能力は場の支配系の能力になります。

場の支配は下位のセフィロト・クリフォトから始まり条件を満たしたのちレベルが上がります。(その逆も然り)

セフィロトはマルクトからケテル、クリフォトはキムラヌートからパチカルまでの双方10段階あります。

全ての能力はLvが上がっても基本的に上書きされません。

セフィロトの能力

Lv1マルクト(王国)：自分の手牌が二向聴以下から始まる。

Lv2イエソド(基礎)：前の局で聴牌以上をしたら次の局では小さい手で和了ることができる。(連続和了よりも遅いしゴミ手のみ)

Lv3ホド(栄光)：有効牌を引きやすくなり、手牌も良くなる。

Lv4ネツアク(勝利)：ドラが集まりやすくなり、和了りの打点に補正が入る。(クロチャーの能力も僅かながら受け付けない)

Lv5 ティファレット(美)：相手の手牌の一部が見えるようになる、それにより危険牌を切ることが少なくなる。

Lv6 ゲブラー(峻厳)：始まった手牌が満貫に近くなる。また、運次第では跳満もある。

Lv7 ケセド(慈悲)：ティファレットの能力強化が入る。(大半の手牌が見えるようになる)

Lv8 ビナー(理解)：イエソドの能力強化が入る。(連続和了より速いし点数もまあまあ)

Lv9 コクマー(知恵)：ネットアクの能力強化が入る(クロチャーの能力でも半分しか効かない)

LVMAXケテル(王冠)：開始時の手牌が聴牌以下または役満になる。

LvUP：わざと一局捨てるor相手の自摸を防ぐ。

LvDOWN：自分以外が不聴orW役満以上(W役満は入らない)を自摸または栄した場合。

クリフォトの能力

Lv1 キムラヌート(物質主義)：相手の手牌を二向聴以上で始める。

Lv2 アイアツブス(不安定)：有効牌を引きにくくなる。

Lv3ケムダー（貪欲）：相手の手にドラが集まりにくくなる。（クロチャーの能力でも少しは効く）

Lv4ツアーカブ（色欲）：相手を振込みさせやすくする。（卓にいる人の中一人）

Lv5カイツール（醜悪）：局の最初に捨てた牌で和了ることができなくなる。

Lv6アクゼリユス（残酷）：ツアーカブの能力強化が入る。（全員が振込みやすくなる）

Lv7アデイシエス（無感動）：アイーアツブスの能力強化が入る。（有効牌が全く来なくなる）

Lv8シエリダー（拒絶）：キムラヌートの能力強化が入る。（相手手牌が五向聴以上で始まる）

Lv9エーイーリー（愚鈍）：相手は自摸て和了ることができなくなる。

LvMAXバチカル（無神論）：相手のオカルト全封じ。

LvUP：わざと一局捨てるor相手の栄を防ぐ。

LvDOWN：放銃されたらorW役満以上（上と同じ）を自摸または栄した場合。

2：タロット能力は攻撃的な打ち方です。

先ほどの能力とは違い好きな時に発動できません。

タロット能力の多用は2枚までできます。

タロット能力は基本的に一試合中一回しか使えません。

タロットの能力

0—愚者：出来上がった役をわざと崩すことによりそれより上の役で和了ることができる。

1—魔術師：副露を三回することによりとても早く和了ることができる。

2—女教皇：三回槓することにより三回目で必ず嶺上開花で和了ることができる。

3—女帝：直感で打つことによりある程度の火力で必ず和了ることができる。

4—皇帝：相手がリーチを宣言した時に強制発動（試合中一回）宣言した人から跳満で栄できる。

5—法皇：相手が自摸した後の局で強制発動（試合中一回）その人から満貫で栄できる。

6—恋愛：地獄単騎にすることにより必ず和了ることができる。

7—戦車：3巡後に立直を掛けることができる（3巡後聴牌）。和れるかは運次第。そのかわり最低でも三倍満ぐらいの点数が取れる。

8—正義：字牌を切らずにとっておくことで字牌を引き易くする。（和れるかはわからない）

9—隠者：放銃されたらその次の局で強制発動（試合中一回）その相手に満貫以上を

栄する。

10—運命・配牌を偏り易くすることができる。(萬子、筒子、索子、字牌なんでもござれ) オーラスでしか発動できない。

11—剛毅：配牌時に必ず四向聴の役満手が来る。

12—刑死者：SSSさんみたいな狙い撃ち能力、満貫以下の打点しかない分試合中に五回使える。

13—死神：オカルト全封じ(一局だけ) 自分は効果を受けない。

14—節制：手牌がゴミ手だった時発動。その局は必ず和了ることができる。(併用不可)

15—悪魔：自分の手牌がいか九の牌に偏る。(清老頭確率を上げる) 強制力はない。

16—塔・ダブリーをかけた時に発動(一試合中三回) 相手が振込易くなる。(自分も振込易くなる)

17—星：字牌しか来なくなる(大七星確率を上げる) 強制力は一つの文字のみ。

18—月：手牌が五向聴の時のみ発動(試合中一回のみ) 向聴数を増やすことにより国士確率を上げることができる。

19—太陽：赤い牌が来やすくなる。(ユウチャーの能力でも半分しか来なくなる)

20—審判：役満手を張ってる時発動(剛毅との併用可) 相手が一向聴以下の場合そ

の人に放銃できる。

21—世界：天和、地和確率を上げる。

3：天才的な頭脳はまんまの能力です。

尚、セフィロトのなかにある隠されたセフィロトであるダアト（知識）と掛けている。

この能力は基本的に常時適用される。

フルで使った時某天災博士並みの頭の良さと器用さを手に入れる。

4：コミュ撃強は某番長並みのコミュ力を手に入れる能力です。

あまり得意じゃない人でもいずれば仲良くなれるみたいなことができる。

……一種のミーム汚染じゃねーか。

5：圧倒的豪運は名前の通りにとても運が良くなります。

FGOでいうと幸運：EX

6の主人公補正は一種の未来確定能力です。

たとえば強い相手に当たるとピンチにはなるが勝つなど。

一種の現実改変能力です。

その他設定

名前：宮永 照

皆様ご存知ポンコツ姉。

ここの次元の咲ちゃんがバグに近い所為で本家のいざこざが起きなかったので咲とは仲良しである。

尚、ここの咲ちゃんは方向音痴ではなくなっているのでいつも迷ったら咲ちゃんを頼る。

能力は原作通り（連続和了、照魔鏡など）

咲より歳は二歳年上。

名前：宮永 光

元気いっぱいな咲の姉。

こっちはポンコツ具合が幾らか改善されている。

姉と同様、方向音痴なので迷った時は近くににいる人に話しかける行動力のある方向音痴。

能力は、海底牌や有効牌危険牌が透けて見える能力。

見える時は水面に波紋が広がるように見えるというとか。

咲より一歳年上

私が魔王つて無いです……………いや本当だからそんな哀れんだ目で見ないでください。

くくしゆうまつ!!くく

光姉さんの一言で人生初（この体で）の雀荘にやってきました！

この世界での私は今日初めて麻雀をするようなのです！

……………こここの咲ちゃんはまだルールが分からなかったらしいですけど。

ママには死ぬ気で覚えたと言っておりますのでバレることはないと思います
い……………

「やってきました！『roof-top』」

なんとあのワカ眼鏡先輩の実家にやってきました！

咲ちゃんは小さい頃に来ていなかった筈？……………小さい頃の記憶は曖昧ですしおすし。

まあ、今日はこのハイスペックな身体での麻雀を楽しみましょうか。

「咲く？」

「はくくい！」

ママに呼ばれた行かなくては。(刷り込み)

..... 暇どす。

まあハイスペックな身体だけど三歳ですし、まだルールを覚えてないって見積もられて
いると思われてますね。

小さい子はあくまでもママ達の付き添いかなって思われてます
ね.....

姉達是对戦中ですし、仕方ないので歳が近い子を見つけてきますか。

..... と思つてた時期が私にもありました。

ここワカ眼鏡先輩の実家だったなと今頃気づいてしまいました。

この身体はハイスペックですけどなんでこうにも抜けているのでしょうか(ブーメラ
ン)。

予定変更してワカ眼鏡先輩ことまこ先輩を見つけてきましょう。

「とーさーん。わたし他のところ行くー」

「いいけど外に出るなよー」

「はーい」

幸いこの身体は原作通りの方向音痴ではないので迷うことは外に出ること以外無い

のでそこところは良かったと思つてます。

ハデス爺さんありがとう。

「まゝ先輩を探さないと……つてすぐ見つかったね。」

頼みの先輩は姉達と対局していた。

丁度半荘終わつて大人の人が抜けたらしい。

「相変わらず照ちゃん達は強いね〜」

「……それ程でもない」

……我が姉は途轍も無く人見知りなんですな。

「また照に負けた〜」

だらしないですよ光姉さん。

「……と言いつつも国士聴牌つてるじゃけん。」

ワカ眼鏡先輩はこの頃から広島弁じやったんか。

つてか姉達は姉達だった。(白目)

「……一人抜けちやつたから何する?」

「三麻でもする?」

「近くに小さい子おるけん。入れるか?」

「私は良いですよ。」

「..... 咲ってルール覚えてたんだ」

「母さんには聞いて無かったの？」

「ん..... 全然」

にやるほど、通りで誘って来なかったのですか。

「じゃあさ！咲もやろうよ！」

「良いよ光姉ちゃん！」

「この世界で初めての麻雀..... 私、気になります！」

「ルールは東風戦で80000点開始、儂から親じゃけんとなると咲がラスか」

東家：染谷 まこ

南家：宮永 光

西家：宮永 照

北家：宮永 咲

「..... それじゃ始めよう。」

咲ちゃん初めて（この世界で）の麻雀開始！

初手はどんな手牌でしょうか……………

1 1 1 9 9 9 m 1 1 1 9 9 9 s 1 p 白

W H Y ! ! ?

コレ役満じゃないですか……………

初っ端から清老頭じゃないですか……………

こんな手牌上がるしかないでしょう。(乗り気)

…………… タロット能力使いますか。

アルカナフォースXVI「塔」発動

「リーチ！」捨：白

「早っ！つてダブリー!!?」

「嘘じゃろ!!」

「……………」

三者それぞれの反応ですね。

…………… まあ、私もそれされたらそうなりますよ。

照姉さん…………… どんだけ無反応なんですか。

まこ視点

なんじやあの子は!?

初っ端からリーチとはとんだ豪運!

姉達^がこれだから妹も化け物だと思うたが、これは化け物じゃなく怪物じゃ!

何故か儂は塔の上に立っていた。

そして儂^が牌を捨てると.....

「ロン」

塔が崩れていった。

咲視点

振り込んだのはワカ眼鏡先輩か、振り込みやすくなるとは斯の一巡中に振り込むって

ことでしたか.....

..... 怖っ!?

いゝや、やりすぎでしょこの能力!?

「えくと………
うわく気まずい。
清老頭、四暗刻、ダブリ、68000点です………」

ハデス爺さん..... この能力チートすぎひん?これで大人しいってうせやろ.....

染谷 まこ：120000

宮永 照：800000

宮永 光：800000

宮永 咲：1480000

うわく気まずい。

まさか初つ端から役満出るとは思わへんって。

そしてタロット能力がチートすぎひん?

なんや一巡中に振り込むって.....

ゾクツ.....!?

なんか見られた気がする!!?

..... 照姉さんが照魔鏡使ったんか!

ワカ眼鏡先輩には悪いけどなんか楽しくなってきた。

照視点

魔鏡発動してみたけど何故かぼんやりとしか見えなかったし、能力の外見しか見えなかった。

咲の中に見えるのは…… 山の上の花畑の中に佇んでいる表裏一体の木？

上の木は白いけど下の木は黒い…… あと上の木に21個の実がなってたけどどうゆう意味なのかな？

次一局

照：手牌

269 ml69 pl5689 s東西白

…… きつつ。

上がらせる気が無い手牌だね。

まず向聴数を減らさないと……

捨：東

「カン！」

……?
!!?

咲が鳴いた?

咲視点

さーて次の手牌はなんでしょうか……

咲：手牌

東東東南南南西西北北北白

うん…… おかしいよね?

なんで最初から役満なの?

大四喜だよね!!?

もう塔はいいから次のタロット能力を使ってみますか。

アルカナフオースII「女教皇」発動。

照姉さんが捨てたので鳴きます!

「カン!」 東東東東

一度咲ちゃんの身体でやってみたかった!!

誰だってそーします私だってそーします。

引いたのは

引：南

ギター（*。▽。*）

「もう一個カン！」南南南南

引いたのは☒

引：中

あらかん念です。

捨：中

光視点

咲ってどんだけやばいのよ!!??

さつき役満和了ってたでしょ☒

なんてやばい気配が咲の方からするの☒

いつも見えてるはずの水面が見えないしどうなってるの☒

捨：5 s

まこ視点

コレはやばいのう……

さつき振り込んだからこんだけの大きなものを受けたら飛んでしまう。

捨：中

照捨：西

「カンー」西西西西

なんと☒

咲視点

よし!条件達成!

引：北

「もう一個カンー!」北北北北

最後に来てください!

引：白

「自摸…… 大四喜、四槓子、字一色、嶺上開花、ドラ2トリプル役満…… 4800
0点、24000点です。」

やってしまった…… だが悔いはない（*、ω、*）（キリッ）

結果

染谷 まこ：—12000

宮永 照（親）：32000

宮永 光：56000

宮永 咲：244000

勝者：宮永 咲

よっしやー勝った！第3部完！

ん？何故か物凄い脱力感が？

…… もしかして、今までのセフィロトとクリフォトの最終能力を無意識に使っ
てしまったんですか……

ちよつとだけ確認してええ？

マルクト：初手が聴牌以下役満になる。

パチカル：相手のオカルト全封じ。

O H:…… まんまやったんか。

となつてくると、さっきの脱力感レベルが下がった時の代償か。
となつてくると……

「照姉ちゃん、私の中ちゃんと見えた?」

「…… いや、輪郭しか見えなかった。」

成る程、代償系の能力はある程度判ると。

あの後まこ先輩と仲良くなり。もう一局だけやらせてもらった。

オカルトか元に戻った照姉さんが私の能力を見て「それはチートすぎ」と断言されてしまった。

尚レベルは一局捨てたら元に戻った。

…… うん、チートだわこれ。

キンクリってとてもつおい能力ですよね…… スペツ
ク的にスタプラやワールドにはかないませんが……

~~~~『キング・クリムゾン』の能力の中ではこの世の時間は消し飛び……  
そして全ての人間はこの時間の中で動いた足あとを覚えていないッ！

『空の雲はちぎれ飛んだ事に気づかず！』……

『消えた炎は消えた瞬間を炎自身さえ認識しない！』

『結果』だけだ!!

この世には『結果』だけが残る!!~~~~

いや〜5歳になりました宮永 咲です。

あの後家に帰ってから家族麻雀でドン勝して家の中で最強になりました。

中身が私だから家族喧嘩も無く進みましたよ。

まこ先輩とも仲良くなって順調に人生進んでいます。

……… なんかコミュニケーションレベルなるものが見えてますけど。

ペルソナかよ……

特典であるコミュ撃強ですが本当すごいですね。

ある程度話したらこのコミュレベルなるものが見え始め、マックスに近づくにつれて特典か貰える。

本当ペルソナですね.....

身内には効きませんってか身内だから効きません、ちなみにmaxは100です。

まこ先輩のレベルは現在60ですね、なんか最近は割引してくれる様になりました。

あとこの二年の間に特典の解析をしたので事後報告を.....

コミュ撃強についてはさっき言ったので今度は別のを.....

天才的な頭脳については本当にそのままでした。

..... そのままの状態が並外れてましたが。

試しに思い付いた検定やってみたんですよ.....

全て満点でした.....

..... いやハデス爺コレはやりすぎ。

前世でも分からなかった事でもこの特典のおかげでわかるようになりまして.....

本当マツマ達喜んでたけどなんか..... 複雑.....

あと副次的な効果だったけどすごい技術力を手に入れました。

前、防火スプレーなるものを作って家に撒いたら本当に放火未遂事件が起きて肝を冷



やりましたよ……中に光姉さんがいたので本当心配しました。

光姉さんは怖くて失神してましたが、なんか変なこと言いながら起きました。

なにになに？「ヒトデからホタテ、ホタテから蟹、蟹から海老、海老からトマト、トマトからナスへと主人公のバトンが渡されてた？」なにを言ってるんでしょう……

その後光姉さんに新しいオカルトが芽生えましたが……

当の放火犯は「何で☒火がつくどころか熱くもなっていないんだけど☒なにこの家☒」  
とほざいてましたが……

……我ながらやばいものを作ってしまったね。

この技術力がマツマにバレたので壊れた家電の修理は基本的に私が受け持っています  
けど。

……いや、私が機械に触れたら某天災博士並みのテンションになるのはいかせんでげんかせんといかん。これも副次的効果なのかな？

そのせいか、うちの家電は五世代先に行ってた……

ええ(困惑)……

そして照姉さんが見てもこの2つの特典と豪運と主人公補正は見えなかったのでも  
レは能力ではなく自分の素質だと思われます。

38 キンクリってとてもつおい能力ですよね..... スペック的にスタブラやワールドは  
いませんが.....

..... いやチートすぎやろ。

そー言えばマツマ達が旅行に行くって言ってましたがどこへ行くのでしょうか。

## 強化フラグ第一弾くく光姉さんの場合くく

光視点

今日はお留守番！

おかーさんとおとーさんは朝から仕事で出かけているし、咲は照の歯医者さんの付き添いだし。

今日は私しか家に居ない！

とは言っても一人でいることってなかなか無かったからどうやって遊ぶのかわかんない……

仕方なく咲が直したテレビ（何故か4D）を見ながら暇を持て余した私はふと外を見た。

何故か家の近くに怪しい人が見えたから家の鍵をかけた。

これで安心なのかな？

って!!？あの人家に火をつけた☒

外行ったら見つかりそうだし家に居ると燃ちやうよ！

急に焦った私は咲の使ってる本棚にぶつかって本の角に頭をぶつけて……  
気を

失った。

「ん……………ここどこ……………？」

家の近くではないよね……………

家近くにこんな大きなビル街は無かったし……………

看板が見えた。

「童実野市？」

あれ？私って漢字読めたっけ？

「まあ、いつか！」

30分後

……………私、方向音痴だったね。

今思い出したよ。

わからなくなったら、近くにいる人に話を聞こうかな？

……………あのヒトデの髪型をしてる人に話を聞こう。

「あのく道を聞きたいんですけど。」

「どうしたんだい、お嬢ちゃん。」

「あのく実は道に迷ってしまつて。」

「それは…… 災難だつたな。親とはぐれたのか？」

「あゝ…… 「遊戯！ここにあつたが百年目。今日こそ決着をつけるぞ！」 つてなんかきた」

「いigo海馬、だがこの迷子をどうにかしないと。」

「…… いいだろう、我が海馬コーポレーションの社員を派遣する。だが到着は15分ごろになると思うがそれでもいいか？」

「ああ、その間にデュエルしようか。」

なんかトントン拍子に話が進んで私の理解が及ばないんだけど

「デュエル!!?」

LP2000

先：遊戯

「俺のターン、ドロー!!?俺は黒魔術のカーテンを使用!ライフポイントを半分払  
い…… 行くぞ海馬!出でよ『ブラックマジシャン』!!?」 LP2000↓1000

黒い魔法使いの男がそこに立っていた。

「ナニコレエ」

「デュエルモンスターズを知らないのか小娘？」

いやだって…… ねえ……

「俺はモンスターとカードを一枚伏せてターンエンド！」

後：海馬

「俺のターン、ワハハハ!!? ドロー!!? 俺は『コストダウン』を使用!!? これによりこのターンモンスター一体を召還する時コストが2個減る!!? そして『クロスソウル』!!? ブラックマジシャンを生贄にするぞ!!?」

「そうはさせるか!!? リバースカード発動! 『リターントラック』魔法効果を適用する対象を変更する! その後このターン自分のフィールドにいるモンスターに戦闘破壊耐性をつける!!?」

「フン!!? 効果の対象は『ブルーアイズホワイトドラゴン翻弄するエルフの剣士』か。だが我が魂、そしてプライド!!? 出でよ『ブルーアイズホワイトドラゴン青眼の白龍』!!?」

「今度はドラゴン々々☒」

本当にここって死後の世界なの☒

「行くぞ! バトルだ!!? ブルーアイズよ敵を蹴散らせ!!? 『滅びの爆裂疾風弾』!!?」

「くっ…… (LP1000→500) 破壊こそできなかつたがそれで良い。ターンエンド!!?」

「」

本当やばいんじゃない？あの遊戯って人！？

もう残り500しかないじゃない！？

「俺は諦めない！！？俺はこのカードにかける！！？」

えっ……… カードが光った

「ドロー！！？俺は『師弟の絆』を使用！！？来い『ブラックマジシャン・ガール』！！？そして、魔法発動！！？『黒・魔・導・連・弾』このターンブラックマジシャンにブラックマジシャンガールの攻撃力を上乗せする！！？そして、装備魔法『ガーディアン之力』！！？これで終わりだ海馬！！？行け、ブラックマジシャン！！？『黒・魔・導・連・弾』！！？「グアア！！？」（LP2000↓0）」勝負は諦めなければ勝てるぜ！！？」

！！？……… 諦めなければ……… か………

家の中で最弱だからって腐ることは無いわよね！！？

よし頑張つてやる！！？

……… つてなんて私の体透けてるの

ちよ………

「あの子は？」

その後ホタテ頭の人に会い………

「ガツチャ!!? 楽しいデュエルだったぜ!!?」

またそのあと蟹頭の人に会い……………」

「おい、デュエルしろよ」

まだそのあと海老頭の人に会い……………」

「かつとびんぐだぜ!!? オレ!!?」

まだそのあとトマト頭の人に会い……………」

「アクシヨン魔法!!? 回避!!?」

最後にナス服の人に会い……………」

「復讐するだけだ……………」

目が覚めた。

「光姉さん、起きてください。」

「キュ~~~~~ん☒咲!!? ということは戻ってこれたの☒」

「…………… やっぱり失神してたので記憶が曖昧ですね。」

「ん~~~~~だけ~~~~あれ~~~~☒」

あれ本当に夢だったのかな☒

「…………… とりあえず咲!!? 麻雀やろう!!?」



「……失神していた後なのに元気ですね。別にいいですけど。」

「デイスティニー・ドロー」

「それは？」

「運命のカード……いや、運命の牌を引くオカルトかな？」

咲首洗って待つてなさい。

いつか下克上してやるから。

家族旅行☒..... 姉達が迷子になりますよねわ

かります。

やって来ました大阪府!!?

..... 一応前世の修学旅行で来たことありますが。

まあ、前世では宮城出身の一般ピーポーでしたし。

..... 過労死で死んだ（正確には少し違う）ところ以外は。

今度の生まれは長野ですし今回も修学旅行が初大阪だと思つてましたもん。

..... 今思いましたけど、うちの両親つて普通に凄い稼いでますね。大阪ま

で大体一人一万ぐらいますよ。

それを五人つてSそんな浪費ありえませんR A。

しかもゴールデンウィーク中の高い時期に三泊三日ですよ。

..... だけど、咲の世界つてお金持ち多かつた気がするのでこれが普通なの

かな？

京ちゃんだつてカピバラ飼つてたし。

うちは一日目をお土産選びに費やすついでに大阪の街を散策するのでそんな暇なことはならないと思いますが……

「あれ、姉さん達は？」

照視点

………  
しくじった。

余りにも美味しそうな店が沢山あって目移りしてたらいつのまにか逸れた……  
下手に動くとかえって迷うと思うし……

ここは………

近くの公園で待とうかな？

「なんかいる.....」

目の前のベンチにいかにも病弱そうな女の子とその子を膝枕している子に会った.....

..... 咲が言っているオーラが見える。

もつとも邪魔するなみたいなオーラだけ.....

「あの..... 道を聞きたいんですけど.....」

「ええで、えらい別嬪さんな子が迷子になったもんやな。」

「..... 迷子じゃないもん。」

「それは酔っ払いが酔ってないわーって言うぐらいに信憑性ないがな.....」

「どうするんや怜、言うても私らに出来ることは限られとるし.....」

「セーラン家で聞いたらどうや、土産屋だった筈やし。」

~~~~少女達移動中~~~~

怜視点

この子..... 治る気配のない方向音痴やな.....

元々なのかいな……

荒川病院でもこれは治せんとちやうか？

目離したら何処へ行くか分からんし……

「おいセーラ、おる？」

「おるで」

照視点

本当もう……ごめん……

私が治る見込みの無い方向音痴で（開き直り）……

さつき知り合つた怜ちゃんが中から出てきたボーイツシユな子と話をしていた。

「ああく……多分それうちにおるで。」

「まじかいな」

「せやかてトキイ、ほらあつちの「照!!?」ほら来た」

「おとーさん!!?おかーさん!!?」

よかつた見つかつて（上から目線（何故か））

だけど……

「あれ☒咲は☒」

「光も迷子になったからそれを探しに」

「それはホンマかいな..... ミイラ取りがミイラになる未来しか視えん.....」

「..... 咲はうちの中ではおとーさんと同じで方向音痴じゃない方だし..... 私達よ

り姉力が強いから大丈夫.....」

「..... 言つて悲しくならへんか」

それは言わないで.....

「だけど、そうなつたら待たなきゃいけないね。」

「多分咲の事だし30分以内には見つけてくるでしょ、私も付いて行きたかったけ

ど.....」

「..... おかーさんが付いて行ったら咲の仕事が二倍になつちやう.....」

「..... 待とうか」

「ごめんなさいあなた（おとーさん）」

「せやたら家で麻雀やるか？」

「麻雀打てるか分からへんやろ。」

「..... 大丈夫、家族内で二番目に弱いけど打てる。」

「弱くてもええよ。」

ます大阪初麻雀を咲より先に打てるのはラツキーかな？

照姉さんの強さは家族では2番目に弱い(事実).....
同年代は敵なしですけど.....

照視点

同世代の人で打てる人居たんだ.....

てつきり家だけの事だと思ってた.....

「点数計算出来る?」

「もちろんや。」

「いつもは三麻やしな..... 久しぶりの四人で腕がなるわ〜」

「気づかなかったか?うちの休憩室に雀卓あるで。」

確かに.....

よく見たら雀卓あるね.....

お土産に目が行って気づかなかった.....

「..... じゃあサイコロ回すよ」

「うちが親か」

「ラスは僕やな」

東家：園城寺 怜（親）

南家：宮永 照

西家：清水谷 竜華

北家：江口 セーラ

先ずは様子見かな……

怜視点

ます手始めに景気のいいやつやつとくか！

「リーチ!!？」

「早いな」

「手が良かったんや」

先ずは親やし和了るしかないな……

「ツモ!!?リーチ、二盃口、チャンタ!!?跳満6000点オールや!!?」

「うわ、デカイのきたな」

「今日は運がええな」

ギン.....ブルツ

なんや今のは☒

やばい悪寒がしたで.....

あとなんか見られたような.....

照視点

.....鏡が発動したという事は、睨みたいなオカルト封じのオカルト場の支

配系のオカルトはないね。

オカルト持ちは二人か.....

片方は厄介だけでもう片方は相方が居なければ特に脅威は無いから特に警戒する必要はないね。

.....デカイの貰っちゃったから早いけど連続和了発動しよう。

セーラ視点

なんや☒

怜や竜華が顔色が険しなつとるけどなんかあつたんか☒

「怜、顔色悪いけど大丈夫か☒」

「…………… ああ、大丈夫や」

…………… なんか感づいているな。

深く聞かんでおこう……………

「怜ちゃん、ロン。」

「ん？ああ照ちゃんか」

「1300点だよ」

僕もこの後こんなことになるとは思わんかったがな……………

竜華視点

なんか見られた!!?

ウチにははつきり分かる、あれをやったのは照ちゃんや!!?

自分の奥底からなるものを覗き込まれたような気分や.....

「怜ちゃん、ロン。」

「ん? ああ照ちゃんか」

「1300点だよ」

.....
今は照ちゃんを警戒しておこう。

照視点

「ツモ、700点オール」

「怜ちゃんそれロン、3200」

「ツモ、2000点オール」

「ツモ、3600点オール」

「セーラちゃんそれロン、10500点」

.....
結構取れたね。

きっと周りは気づいているから、後何局か連荘出来るかな？

「怜ちゃんそれロン、19500点」

「ホンマかいな……」

これで気づいたよね。

「……………このまま飛ばす。」

家の中では弱かったけど……もしかしたら私強かったのかな？

「すまんな照ちゃん、ただでやられる訳にはいかないやロン、5700点」

「竜華ちゃん……わかった。」

途切れちゃった。

セーラ視点

「こちらもなんか一矢報いなければな……」

「ここまで化け物やと思わなかったな……」

「これで二番目に弱いつて嘘やろ……」

「照ちゃん……あんたが強いのは分かった……ただどなあ一矢報いさせてもらっ

たで。ロン、16000点」

「ワイもやロン、8000点」

怜も和了ったか.....

久しぶりにラスやな、やっぱり悔しいわ.....

最終結果

園城寺 怜：20500 (―10)

宮永 照：43300 (+14)

清水谷 竜華：18200 (―12)

江口 セーラ：18000 (―12)

勝者：宮永照

照視点

「いや..... 強いな照ちゃん。」

「たまたま上手く行っただけ、最終結果では大差ない.....」

「いや〜それでも強いわ、これで二番目に弱いわ嘘やろ。」

「..... 今のままでは咲には勝てない。」

「さつき言つとつた妹さんか？」

「うん……」

「マジかいな……」

咲つてなんであんなに強いのかな

スタイルが独特だからかな

能力がチートだから

多分デジタル打ちで咲には誰も勝てないよね……

……今思うと、妹がチートどころじゃなくバグだった。

「姉さん後セーラさんありがとうございました」

「咲」

バグが来た……

（人をバグ呼ばわりするのはいけません）

こゝ、こゝいつ脳内に直接？

「妹さんって麻雀強いんやろ一緒にやろうや!!？」

「私は良いですけど……とーさん」

「……母さんと一緒にお土産選んでるから3時間後にここに来る」

「..... ありがとう」

「光姉さんもそれで良いですか☒」

「良いよ!!?」

「..... 迷子になった後なのに元気ですね。」

咲のバグの源を見る良い機会になるかな.....

うちの妹達がこんなバグな訳無い(白目)……………
と思いたいけど本当に虎と狸、象と鼠の対比過ぎて突っ
込む気にもならない……………

「誰が抜ける☒」

「僕がラスやっつたし抜けるわ。」

「照だけ新しい人と戦ってるのはずるい!!?」

「…………… 光姉さんは麻雀に関しては何処ぞの戦闘民族と大差ないですよね。」

「…………… 一理あるし私が抜ける。」

我儘な姉の子守も大変ですね……………

今回は光姉さんに譲りましょう。

光視点

大阪の子達って強いのかな!!?

照がオーラスでダブロンされたって聞いたし強いよね!!?
私..... 気になります!!?

「私がラスだね!!?」

「今回は僕が親か..... 次はてっぺん取ったる。」

東家：江口 セーラ(親)

南家：園城寺 怜

西家：清水谷 竜華

北家：宮永 光

竜華視点

手がええな.....

「リーチ!!?」

「早いな..... 親流されるのは嫌やから僕も早めに上がらせてもらうで。」

セーラが早上がりに切り替えたか.....

「ポン」

光ちゃんが鳴いたな……

あ、来たな。

「ツモ、満貫4000点・2000点」

少しなんか違和感があったツモやな……

光視点

危なかった……

危険牌が視えたから「回避」を使ったけど……

あのまま行けばどちらにせよ怜か竜華に振り込んでたしね……

……ラス親だし、攻めきれぬまでは待とうかな？

手牌

29 m 58 s 159 p 東東南西北白白

……新しいオカルトを試したいし攻めよう。

蟹頭の人も言ってた、「どんなカードでも存在する意味がある。」って。

「ごめん3人とも、新しい能力を使うよ。」

「僕らはまだ光ちゃんの雀力がわからんからええよ。」

言質はとったからね……

「集いし星が一つになるとき、新たな絆が未来を照らす！光さす道となれ！リミット
オーバークアクセルシンクロ！進化の光！ゴー!!？シンクロツモ!!？国士無双、1600
0点・80000点!!？」

「なんやて☒」

「どんなにバラバラでも、どんなに上がるのが大変でも自分を信じるのか決闘者だ!!？」
デュエリスト

「私にもわからないよ.....」

常識の範疇に入らない人達だし.....

「..... 今分かったわ、さっきの違和感は光ちゃんなんやな。」

「..... ♪!!？まさか見えてたの☒」

「少ししか気づかんかったわ。」

「..... 光、竜華ちゃんは感が鋭い。私の鏡にも気づいてたし。」

「..... 油断大敵だね。」

「楽しくなってきたよ〜」

怜視点

いや、ウチ大ピンチちゃん!!?

残り7000しかないな……

「竜華、悪いけど危なかったから和了らせてもらうわ。ロン、7700点」

「怜の能力で光の振り込む牌を見たらええやんか。」

「……………それがな、振り込む気配がせえへん。」

「ホンマかいな……………もしかして光ちゃんは危険牌が分かるんか☒」

「私は危険牌と有効牌が視えるんだよ。」

いやチートやないかい。

照ちゃんどどっこいどどっこいやろ……………

この子が最弱ってどんな化物家族や……………

あの後セーラがツモったがやっぱり振り込む未来か見えんかった……………

最終結果

江口 セーラ：20900（―9）

園城寺 怜：12700（―17）

清水谷 竜華：15300（―15）

宮永 光：51100（21）

勝者：宮永 光

光視点

やっぱ強い!!?

久しぶりに家族以外で回避を三回使っちゃった!!?

「強いなくこれで最弱なら咲ちゃんは一体どんな化物なんやろ.....」

「咲?バグだけ。」

「人をバグ呼ばわりはいけません。」

「..... 本当のことだし。」

「照姉さんまで.....」

いや、咲はチート通り越してバグだから。

咲視点

まったく、人をバグ呼ばわりは流石に酷いですね。

「怜さん、大丈夫ですか☒顔色悪いですけど。」

「ん………… ああちよいと能力使いすぎてな。」

「………… 怜さんの代わりに私が入ります。」

「私、抜けていい☒」

「ダメです。」

バグ呼ばわりした肅清ですね。

「私から親ですか…………」

「咲が親なの☒………… 飛ばされる覚悟しなきゃね…………」

「皆さんが飛ばないように50000点スタートにしますか☒」

「…………… これは受けた方が良い。」

「照………… マジかいな。」

東家：宮永 咲（親）

南家：江口 セーラ

西家：宮永 光

北家：清水谷 竜華

時間もあまり無いですし早めに終わらせましょう。

アルカナフォースXXI「世界」発動。

「ツモ、天和 大三元 ダブル役満なので32000オール。」

「「はあく〜」」

「.....この悪魔。」

「照姉さん、後で麻雀しましょうね。」

ああ、項垂れてる。

光視点

いや.....分かってたけどね.....

咲の事だから残りの時間を私たちのために残したいと思ってる顔だし。ただ、やられっぱなしじゃ腹の虫が収まらないから.....

「奇跡のドロ〜」発動

「カン!!？」發發發發

「ロン」

「ウエエエアアア」

「槍槓、国士無双」

やられた……

睽視点

姉さんのことだからやってくると思っていましたからアルカナフォースXI「剛毅」使わせてもらいました。

いや〜白く燃え尽きてますね〜

バグ呼ばわりしたお仕置きですので別に魔王的な意味ではありません。

「姉さんが飛んだので終わりですね、ありがとうございます〜ございました。」

最終結果

宮永 睽：94300（64）

江口 セーラ：18000（112）

宮永 光：30300（60）

清水谷 竜華：18000（112）

勝者：宮永 睽

最近ハデス爺に貰った主人公補正は魔王補正じゃ無いかと考えてる今日この夜

「いや〜本当にバグやったな〜」

「……咲に勝つ事は未だ出来ていない、咲は一位の座から落ちたことが無い……………」
「それがおかーさんの友達のプロでも。」

「ホンマかいな……………」

あ〜確か瑞原さんでしたっけ。

あの人は防御を軸とした打ち方なのでオカルトで戦ったら足元を掬われかねなかったのデジタルで戦いました。

……その所為か我が家の（麻雀的な）立ち位置がデジタル最強の末っ子って感じになりましたが。

「……ならネット麻やってるか？」

「やってますよ、つてかH・N『花咲』です。」

「それって『麻雀〇竜』最強の人やないか!!」

「最近『麻雀倶楽部』もやってますけどね。もしかして怜さんもネット麻やってるんです

か？」

「……怜どう言う事や。」

「いいか竜華、花咲さんはなある時ネット麻に現われた新星なんや。勝率は驚きの100%、付いた渾名は『機械仕掛けの女神』Deuss Ex Machinaまたは『鎚Hammer and Anvil』と？』運営も正体不明のプ
口か人工知能かと当たりをつけているんや。」

「私は生きてますし機械ではないですよ、ってかその渾名広まってたんですね。」

私がお父さんのノパソを直してたら、いつものこと（今回はもはやオーパーツ）が
きて私以外には使えなくなったのはじめたんですが……意外にも嵌ってしまった
ね。

気づけば何百回戦って勝率100%って云う大記録を打ち立てただけなんですけど

ね。

……今思うとその渾名ってどっかの財団が血眼になって探していそうですね。

「そんだけ凄い人と戦ってたの僕たち!？」

「そりゃ勝てないわけだ……」

「……だから咲はバグだって言った。」

……最近思ってたんですが、ハデス爺さんがくれた補正って主人公補正じゃなく

魔王補正ですよね。

いや……元々咲さんは『清澄の白い魔王』って呼ばれてましたし、この身体に補正が

付いていたって可能性が微粒子レベル……いや、太陽レベルでありますね。

主人公補正の素養はまだ未覚醒のかな。

ともかく時間が来てあの三人のメアドをもらって別れました。

なんか、怜さんと照姉さんが仲良くなりましたが。

ほう、何何？メールの仕方を教えてくれ？いいですとも！

「あ、明日は京都に行くから。」

「「は？」」

「大阪観光もう終わっちゃうの?!」

「いや、大阪って観光地が少ないしなら、京都と奈良にも行こうかなと。」

「まあ、下手にU・O・Jなんかに行ったらまた迷子になりますよね。(姉二人を見ながら)」

「咲には申し訳ないんだけど今回は諦めて貰えるかな。」

「……仕方がありませんね。」

姉が迷子になって時間が無くなるほうが嫌ですし。

次の日

京都にやってきました咲です。

やっぱり京都は凄いですね。

前世の母親の実家が秋田の角館（みちのく小京都で検索）だったのである程度は同じかと思いましたが、いや〜本物はやっぱり違いますね。

え？前世で来たことが有るんじゃないかな？

……修学旅行の三日目に風邪を引いて京都に行けなかつたんですよコノヤロー。
こんなこともありましたし今回は心行くまで楽しみましょう。

「……咲のあんな笑顔始めて見た。」

「いつもの咲じゃないみたい……」

あの後つつがなく観光しに京都を回ってP. M 1:00

「あれ？照姉さんは？」

強化フラグ第一弾～～照姉さんの場合～～

「一体どうやったらこんな迷子になるんですかね……」

二日連続の迷子は流石に私呆れますよ……

何なんですか呼吸するかのよう迷子になつて。

照姉さんは迷子にならなきゃ死ぬ新種の鮪ですか。

「お母さん・光、父さんのところに行つてください……私は姉さんを探してきます。」
「わかつたわ……それじゃああの店で待つてるわね。」

そう言つた後マツマ達は店に入つていった。

そして私はスマホを取り出した……

え？何でコノ世界にスマホがあるのかつて？

私ですよ私（元凶）いつものことです。

ですけどここは観光客の多い京都……

地元の人、ここら辺に精通してる人にある程度のことを聞いたほうが良いですね。

「すみません!!」

「なんや？」

「迷子になる子が行き着く場所知らないですか？」

「迷子なんかワレ？」

「いいえ、姉が。」

「なるほどな。」

視界に入った商店の人に話を聞いた、理由？ 適當。

「おい！ 浩子！ この子を交番に連れて行ってはくれないか？」

「かーさんの帰省中にあつたことやから自分で行きーや。」

「いや、ホント迷子じゃないんです。」

くく少女説明中くく

「つまり、君は方向音痴の姉を探す為に聞き込みをしてたと。」

「はい」

「母親は居るんか。」

「……居ますけど、姉と同じく方向音痴で一緒に探したら私の仕事量が二倍になります。」

「……相当お疲れのようやな。」

「旅行中これが二回目の迷子なので。」

そんな哀れんだ顔で見ないでください。

照視点

「()何所？」

気が付けば私は人ごみの所為で睨たちとはぐれてしまった。

「人が居ないところにいかないと……」

迷子になった時に睨に言われたことを思い出して私は人ごみの少ないところに行つた。

そして、ある男の子とであつた。

??? 視点

「征、心をつよく持ちなさい。」

「どうしてですか、お母さん？」

「お父さんは貴方に厳しくするかもしれない。」

「知つてます、それが赤司家の為でもあります。」

「今は貴方は私に甘える事が出来まずけど私も病弱でいつ死ぬのかはわかりません…… 本当はこんな事息子に言いたく無いけどね……」

「…… それは嫌だよ、母さんがいたから僕は頑張れたんだ。」

「私だつて息子残して死にきれないわよ。自分自身の素晴らしさを信じなさい。他の誰でもない自分自身であることに誇りを持ちなさい。」

そう言つてくれた母が昨日倒れた。

心臓が一時は止まったらしい。

僕は心配でたまらなかつた。

だけど父は自分が行くから僕は家でやるべきことをやれと。

僕は母さんがいたからここまで頑張つて来れたのにここまで言うことは無いじゃないかと怒つた。

そして僕はいつのまにか家出してた。

そして、河川敷でドジなあの子と出会つた。

あの子を見た最初の印象は一言で言えば泣き虫な、だけど強い子だった。

私は河川敷に座って泣いているその子に話しかけた。

話を聞く内にその子がたくさん……いや、とてつもなく頑張ってきてそれから爆発したのかと考えた。

しかしその子の母さんのことを聞くと私はその子の父親に怒りたくなかった。

「……それは酷い、だけど勝手に家出してきたあんたも悪い。」

「僕は本当は弱くて惨めな奴なんだ……だから母さんが無くなってしまう事になってしまおう事がとても怖い。」

「……私もその気持ち分かるよ。」

「えっ☒」

「私も、妹を下手したら放火で殺されてたかもしれないの。その時、ある子のおかげで事なきを得ただけ……私はいつも思う、あの時あんな事か無ければ一体今はどんな風になっていたのだろうと。少なくとも今の様に笑って過ごす事は出来なかったと思う。だからそれは誰だって同じだよ。」

「……僕……」

「そんなに信じられなかったら私が信じてあげる。」

「えっ。」

「私が貴方の事を信じてあげる。」

「この子には支えてくれる人が必要だ。」

「私が貴方の事を信じてあげる。」

「……いいの、僕はそんな大層な人で無いかもしれないよ。」

「……母さんの為に家出と言う名の見舞いに出かけて迷子になった感じでしょ」

「……………」

「…… やっぱり、同じ匂いがしたから怪しいと思った。」

「ここに住んでるんじゃないの」

「別荘があつてそこに來てるんだ、いつもは東京にいる。」

「お金持ちの家だったのね……」

咲（浩子） 視点

「何ですか、あのラブコメになりきれなかった空間は。」

「そう言われても本人達にそんな気はあるわけないやろ。」

「…… それはいいです。問題は今行ったら迷子が一人から二人に増える事です。」

「幾ら何でもそれは酷いと思うで。」

「なら一回あの二人の妹にでもなりますか？毎日迷子になってる二人ですけど。」

「うん、仕方ないわ。」

本当あの二人の姉はなんで毎日迷子になるんでしょう。

今は学校に照姉さんしか行つてないからいいですけど、本当私以外が全員小学校に入ったらまずいです。（主に迷子）

今でも私しか道覚えてないですしおすし。

「…… その人、コソコソしないで出てきてください。」

「バレていたのですね。」

「多分あの子の母さんですか。」

「そうよ。」

「…… 病人がなんでのこのこ病院から出てきているんや。つてか心臓止まってたんやないか？」

「持病だったからね。止まりやすいけどその分AEDで戻るのも早いから。」

「だとしても当分は入院しますよ。」

「だって…… 征ちゃんが家出って聞いたたら居ても立っても居られなかったし。」

「過保護か!!?」

本当、聞いた通りの親ですね。

後先考えないのは遺伝ですかね。

「…………… ここで倒れてもらつては面倒ですし、これ心臓の薬です。」

「貴方も心臓病を患つてるのかしら?」

「今作りました。」

「「えっ」

「副作用なしで、先天的な心臓病も一ヶ月ほどで治ります。」

「貴方何者なのよ……………」

「さっきの事見てたから突っ込む気になれん。」

(さっきの事)

「良いですか浩子さん、こつから先は他言無用です。」

「ええけど、何やそのタッチパネル式の電話は……………」

「私が作りました。」

「ええ……」

「これを私のパソコン（オーパーツ）に繋げて……」

「なんやねんこの文字列は。」

「宇宙ステーションのカメラをハッキングして京都に標準を合わせてるだけです。」

「……… もういつペン言ってみい☒」

「だから宇宙ステーションのカメラをハッキングしてます。」

「あんた一体何者やねん!!?」

「ただの幼稚園児ですがなにか☒」

「ただの幼稚園児がハッキング出来るか!!?」

「まあ悪いことをしていると自覚してるので、後で三十世代先のファイアウォールを送り
ますよ。」

「セキュリティの問題やないやろ☒」

（元に戻る）

「つてのがあつて……」

「本当あの子人間☒」

「失礼な、れっきとした人間です。」

咲の時代風景つて結構昔だからセキユリテイの面では結構遅れてるんですよ。

「なので、その薬を飲んで完治させてください。」

「……完治できるの☒」

「計算通りなら一ヶ月ほどで……遅くとも半年以内です。」

「ええ……」

「もうこれでいいですよ、迎えに行きますよ。」

「あつ、ハイ。」

照視点

「見つけましたよ姉さん。」

「咲」

「なんで毎日毎日迷子になるんですか。」

「……めんなさい。」

「責めてるわけではないです、今回は人混みで迷っただけなので。」

「母さん……」

「征ちゃん、ダメじゃない家出なんかしたら………
つて征ちゃんの事だから見舞いに
行つて迷子になつたんだと思うけどね。」

「ごめん。」

「分かればいいの。」

征十郎くんの母さんも来たみたい。

「それじゃわたし達はこれで。」

「あの!!? 照君は僕が現実から目を向けたらどうする☒」

「その時は征くんの目にわたしはなるよ。」

「……… ありがとう。」

「……… ほら泣き虫征くん、ちゃんとしなさい。」

「マスター珈琲豆直で」

「……… 私はマスターではありません。」

「バグなのに☒」

「そこ!!? 訂正!!?」

「まあ照ちゃんとならば考えてもいいわよ。」

「……… ここですんなことを言わないでください、ほら姉さん顔真つ赤じゃないですか。」

「……………照れてない。」

「それは酔っ払いが酔っ払ってないですよ。って言ってるようなもので。」「
「本当その例え好きですね。」

テツテレー咲はレベルが上がった…… 浩子ちゃんは
覚醒した……

「浩子さんこのことは内密に。」

「分かつとるで、流石に犯罪してる所を見たからにはな……」

「仕方なかったんですよ……… 家に帰ったら速攻で私用の人工衛星を打ち上げますか……」

「ちよいちよいちよい、それは大丈夫なんか☒」

「あつ、それは大丈夫です……… 国際法で南極と宇宙はどの国でも使ってもいいと決められてるので。」

「……… バレんようにな。」

「流石に秘匿機能は付けますよ、カメラもグラフィーもつけようかな……」

「やめたげて、大人達が可哀想や。」

「自分で作れない人達が悪いので……… ってかさつきファイアウォールの他にロケットの設計図を送ったので実際にはプラスじゃないですかね？」

「……… あんな時間でよう出来るな。」

「タイピングだけなら簡単なので。」

「突っ込む気になれん。」

仕方ないじゃないですか……

この時代を便利にする為（自分の為）に私は発明してるんですよ
チートのお陰で上手くいってる点もありますからね。

「まあ、秘密を知る同士仲良くやろうや。」

「これからは運命共同体って事ですかね。」

「そうや、よろしくな。」

「はい。」

まあ、姉達のお陰でこんな風に友人が増えていくので別にマイナスでは無いんですが
ね。

ゾオ

何☒

我は汝……

汝は我……

汝、新たなる絆を見出したり……

絆は即ち、まことを知る一歩なり。

汝、“月”のアルカナを生み出せし時、我ら、更なる力の祝福を与えん……

System

宮永咲は月のコミュレベルを上げました。

アルカナフォース『月』の能力を強化します。

…… 成功しました

『月』の能力の詳細が変わりました。

五向聴以上↓いつでも

船久保浩子に月の能力が受け継がれました。

船久保浩子はオカルト『ツクヨミ』を手に入れました。

WRYYYY?!

何が起こったの☒

あんまりにも突然だったから最初DIO様になっちゃったけど☒

もしかして……

あのコミュ撃強の真の力!?!?

おまえはこんなオカルトだっ

たんか

そりや受け継ぎのオカルトなら姉に見つかからない訳だよ!!?

対局中に発動する筈無いよ☒

考えたら頭が痛くなってきた……

「…………… どうしたの（んや）、咲☒」

「…………… いいえ、何も。」

その後、浩子ちゃんとメアドを交換して別れた。

浩子視点

今日はおもしろい人に会ったな……………

咲ちゃんか、ウチの新しい友達で共犯者……………

…………… 考えるだけでおもしろくなってくるやんか!!?

「洋樓、おもしろい人に会ったで。」

「なんや、浩子から話しかけるのは珍しいな。」

「ウチも聞きたいけどええか？」

「絹もええで、咲ちゃんゆうてな……………」

「なんやそのチート。」

「それは夢じゃ無いよね？」

「ああ、ウチのオカンもおうとるしホンマや。」

「叶榎叔母さんもか.....」

「..... こりや本当ばいね。」

咲ちゃん、ウチも共犯者や。

景気のいい親友になってもらうで。

咲視点

アルカナシャッフル事件（咲命名）を通り過ぎ、咲は本当に疲れたので先に昼寝をしていた。

「テルテル!!? 迷子になったって☒」

「..... 今回は人混みが悪い。」

「まあまあ、明日は奈良だしかもう寝ましようね。」

「明日は楽しみにしてろよ。」

「おとーさん」

「あなた、今回は旅館を取ったらしいけどどうなの☒」

「阿知賀の松実館って所だけど、そこは愛も知ってるんじゃないかな」

「ああ!!?あの旅館ね!!?」

「確か、高校時代に泊まったんだっけ」

「そうなのよ、高校の麻雀部の遠征でね。」

「こうして本人の知らない所で頭痛の種が増えてゆくのであった……」

奈良に行ったら何故かサイドAのみんなに何故か会ってしまった（予定調和）けど……まあいつか（思考放棄）

やってきました奈良県。

いや〜父さんが旅館の予約を取ったらしいから大丈夫でしょう。

……母に任せたらやばいどころではないので。

だけど本当大丈夫ですかね……

聞けば母が高校時代に泊まったらしいんですけど……

うちの母はちよつと独特の感性をお持ちのようで。

「本当、心配ばかりしてるな私……」

「咲、すまないね。」

「大丈夫だよ、父さん。元はと言えばこの三人の方向音痴のせいになってるし。」

まあ、この家族で旅行するところな事になるといいう教訓が出来て良かったと考えますか。

……家の近くが恋しい。

「んで、何処に向かっているの☒」

「奈良県の阿知賀って言う所。」

「ばるどうん、ぷりーず☒」

「阿知賀の松実館って所だけど」

「……もう突っ込みません。」

「……もう突っ込みません。」

「……もう突っ込みません。」

「……もう突っ込みません。」

「……もう突っ込みません。」

「……もう突っ込みません。」

「……もう突っ込みません。」

「……もう突っ込みません。」

「……もう突っ込みません。」

「着きましたね、此処が松実館ですか。」

「……結構立派。」

「でしよ〜」

「ぶつちやけ言うとあんまり期待してなかった。」

「光姉さん、本音本音。」

「……………まあ、光の言う事も理解できるけどね。」

「確かに、愛さんはちよつと独特の感性を持つてるからね。」

「本当、私のこの所は似なくても良かったわね。」

「姉二人は方向音痴と言う名の名状し難き物が遺伝してるんですがそれは。」

「本当、咲には感謝してるよ。」

「最近、咲の頭は神様がこの三人を助ける為に付けたものだと考えている……………」

「面白いこと言ってるけど否定出来ない……………」

何回も思いますかうちの姉達カンが鋭くないですか？

そして父さん、私だつてこうなるとは思っても居なかつたつて言いたいです。

まあside Aの前ですけど運が良ければ赤土晴絵阿知賀のレジエントに会えますよね。

その前にあの姉妹とご対面するのが一番楽しみです。

??? 視点

「おかーさん、今日何人くらい来るの☒」

「一応一組だけだけど、人数は5名だから部屋二個使うから掃除よろしくね。」

「良いよ。」

「宥は……そうね浴場の掃除をしてくれないかしら、ボイラー室は夏使わないしね。」

「わかったよ〜」

今日はお手伝いの日！

お客さんの中には私と同じくらいの子がいますと聞いてる為私こと松実玄は心をワクワクさせていた。